

北いわた

北岩手の復旧・復興 2015

復興最前線

CONTENTS

みちのく潮風トレイル	2
三陸鉄道	4
三陸沿岸道路	5
野田村	6
復興 レポート	久慈市 8 洋野町 10 普代村 11
復興インタビュー	12
復興に向けた取組状況	14
二戸地域のトピックス	15



野田村/城内地区高台造成地

野田村/南浜地区災害公営住宅

久慈市/あまくらぶ

洋野町/ひろの水産会館(ウヰーク)

普代村/三陸鉄道北リアス線(堀内駅)

普代村/鵜鳥神楽

みちのく潮風トレイル コースと主な見どころ

みちのく潮風トレイルの詳細は
<http://www.tohoku-trail.go.jp/>
をご覧ください。

洋野町区間 久慈市区間



1 県立種市高校

洋野町

「南部もぐり」を育成する海洋開発科があることで有名。NHK「あまちゃん」の舞台にも。見学は外観のみ。(写真は南部もぐり)



2 種市海浜公園

洋野町

子供連れでも楽しめる海水浴場を中心に、シーサイドハウス、キャンプ場等の施設がある海浜公園。夏にはイベントなども行われます。



洋野町の海もレジャーが楽しめるまで復興しましたよ。



3 宿戸漁港

洋野町

地元漁師の基地。ウニ漁の漁場が近いので、初夏からは家族総出での収穫から殻むきまでの作業を見る機会も。

4 白滝神社

洋野町

白滝大明神を祀る社。神社から徒歩15分ほどの中野白滝は連続した二段の大滝。上の滝は高さ27m・幅8m、下の滝は高さ6m・幅12m。

5 北侍浜野営場

久慈市

アカマツ林の中にあるキャンプ場。夏には天然の岩で作られている海水プールで遊ぶこともできます。



6 侍の湯きこ屋

久慈市

断崖に建つ宿泊施設。入浴や食事のみも楽しめます。



7 もぐらんぴあ

久慈市

地下水族科学館「もぐらんぴあ」は5階建てで管理棟を新設し、平成27年度オープン予定です。(写真はまちなか水族館)



10 小袖海岸

久慈市

7月から9月に実演しています。詳しくは「北限の海女」のHPで。



沿岸各地の動画が見られます

本誌内に動画再生のマークがあります。ご覧になっているメディアに合った方法でご利用ください。



家族で見てね!

スマートフォンやタブレットのアプリ「junaio」を使ってマークをスキャンしてください。



無料ARアプリ「junaio」の使用方法
iOSはAppStore、AndroidはGooglePlayから「junaio」をインストールしてください。アプリを起動し画面右上の「スキャン」をタップし、ページ内のマークにかざすと動画が再生されます。



家族で見てね!

みちのく潮風トレイルで 楽しむ北三陸

青森県から福島県までの太平洋沿岸約700kmを結ぶ「みちのく潮風トレイル」。三陸復興国立公園の創設を核とした東日本大震災からの「グリーン復興」の一つとして、環境省が中心となり整備を進めています。岩手北三陸でも2区間・3コースが設定されており、その代表的な見どころを地元アイドルグループ「あまくらぶ」の皆さんが紹介してくれます。

「みちのく潮風トレイル」構想は東日本大震災からの復興のため、平成24年5月に策定されました。森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域のくらしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興することを目的としています。

設定するコースは、地域を代表するすぐれた景勝地や暮らし、文化を感じられる場所など、歩いて興味をそえられる地点が選ばれています。また、三陸海岸には貴重な、あるいは美しい地質遺産が数多くあり、その一部が「三陸ジオパーク」に認定されています。

現在、岩手北三陸で整備されたのは、洋野町と久慈市の2区間。洋野町では奇岩・窓岩や種市海浜公園のほか漁業の歴史や伝統技術に出会える「角浜〜八木」コース。久慈市では義経北行伝説が残る侍石や半崎の野田層群などのドラマチックな海岸線を歩く「侍浜」コースと久慈市内の見どころを歩く「まちなか〜小袖」コース。

今後、野田村や普代村のコースも設定される予定で、更なる観光の盛り上がりも期待されます。

小袖海女センター

東日本大震災津波で流された前施設に代わり、平成26年12月に完成した新たな小袖海女センター。地上3階の鉄筋コンクリート造りで床面積は約264㎡。1階は観光案内所や産直施設、2階に海女を紹介する展示コーナー、3階には軽スペースが設けられ、本格オープンはこのゴールデンウィーク頃の予定です。



三陸鉄道とともに交通の大動脈をなす三陸沿岸道路は、災害時にも利用できる新しい道路として、着実に工事が進められています。



普代道路(4)



東日本大震災津波の影響で、復旧さえ危ぶまれた三陸鉄道北リアス線が平成26年4月6日に全線で運行を再開しました。



普代村堀内駅(1)

家族で見てね!



久慈北道路 宇津目地区(5)



久慈北道路 北野地区(6)

三陸沿岸道路

沿岸地域の交通大動脈 県内全線で着工、整備進む

宮城県から青森県までの太平洋岸を結ぶ総延長359kmの自動車専用道路として、着々と整備が進む三陸沿岸道路。久慈地域に整備が計画されている区間のうち約1割が開通したことになり、急カーブの解消によって走行時間が短縮され、水産物等の輸送の効率化や観光ルートの拡大などの効果が現れはじめています。平成30年の供用開始を目指す久慈北道路をはじめ、野田久慈道路(普代-久慈)や洋野階上道路(待浜-階上)の工事もすでに着工。沿岸地域の交通の大動脈の整備が進められています。

沿岸部を走る三陸沿岸道路は、津波襲来時の避難道路や緊急物資の輸送道路として機能するなど、まさしく「命の道」として大きな効果を発揮しました。こうしたことから県は、三陸沿岸地域と内陸を東西南北に貫き結ぶ高規格道路ネットワークの構築が必要と考え、これらの道路を「復興道路」として位置付けています。



三陸鉄道株式会社 運行本部長(兼北リアス線運行部長) 安全統括管理者 金野 淳一さん

復活 日常を目指して

全線開通まで毎年段階を踏んで復活していたので、私たち社員も現実的に目標を持って頑張ることができたと思います。信号などのシステムがダウンしている中で運行していた期間は、田老駅、小本駅など冷暖房のない駅に社員が常駐し、毎日信号を出して踏切遮断機を下ろす作業をしていました。社員は電車を走らせるために車で移動するので、当時は社員の安全がとにかく心配でしたね。やっと全線が開通して、行き先に「宮古」「久慈」と表示出来た時はなにより嬉しかったです。近頃はあまちゃんを目的とした観光だけではなく、純粋に三陸を見て回るお客さんが増えました。これは鉄道が日常に戻ってきたということです。「なければならぬ」鉄道であり続けるために、県内はもちろん全国からお客さんを呼び込み三陸地域に活気が溢れるよう、頑張っていきたいと思っています。

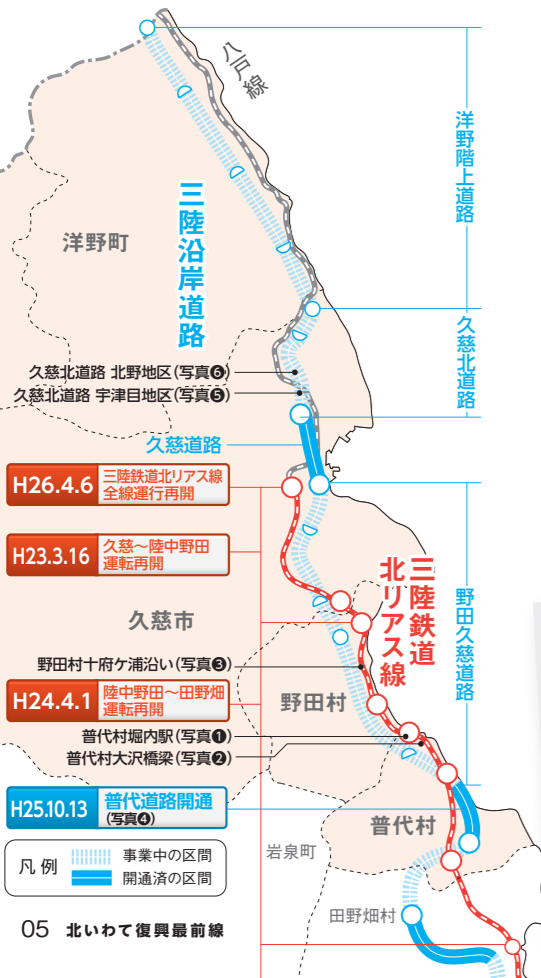


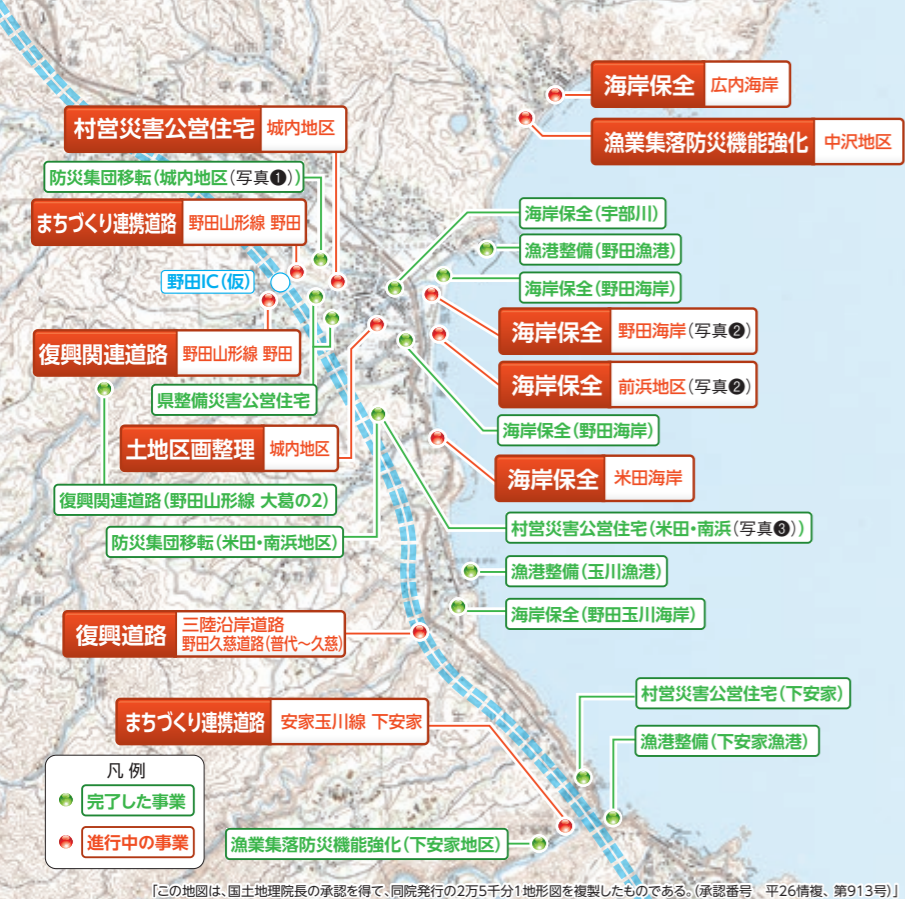
三陸鉄道北リアス線 レトロ列車&お座敷列車 普代村大沢橋梁(2)

三陸鉄道

全線運行再開から1年 復興のシンボル運行中

東日本大震災津波発生から5日後から久慈駅-陸中野田駅で運行を再開、復興のシンボルとして地域を牽引してきた三陸鉄道。最後まで不通だった北リアス線の小本-田野畑間の運行が再開された平成26年4月6日は、沿線はもとより世界各地から、全線運行再開を喜ぶ声が届きました。運転再開に合わせて新車両も導入。運行体制の充実も図られ「地域の足」としての役割を果たす一方で、レトロ列車やお座敷列車のイベント列車のほか震災学習列車も運行、地域外の人たちが三陸へと足を運びつづけていくにも取り組んでいます。開業から31年目の今年、三陸鉄道は新たな歴史を刻みはじめています。





合言葉は「がんばるのだ！」



高さ約51mの山を掘削し、村で最大規模の74区画(自力再建20区画、災害公営住宅54区画建設予定)を造成した城内地区の高台移転用地。造成工事は平成27年1月に完了し、住宅再建への準備が整いました。



社会資本の復旧・復興の状況



スマイル直売所 友の会
山田陽子さん^④ 野崎才子さん^④
移動販売で仮設住宅や高齢者を支援
この直売所は平成22年10月にオープンし、開業して半年も経たないうちに震災に遭いました。震災後は、直後の4月から営業を再開。5月に野田中学校に応急仮設住宅が建つと同時に仮設住宅への移動販売を始めました。今でも週に2回の移動販売を行っており、仮設住宅から全員が出られる日まで続けていくつもりです。新しい住まいになっても呼んでもらえたら嬉しいですね。現在はお弁当やお惣菜など、加工品に力を入れています。お年寄りのお客さんが、おかず一品でも「あとと助かる」と言ってください。やはり高齢者の皆さんに商品を届けたいという気持ちが大きいですね。将来的には調味料も含めて手作りし、安全安心な食材と食品を届けられるお店にしたいと思っています。

H26.7 完成



災害公営住宅が各地に完成
今春には計画の46%が完成予定

米田・南浜地区高台団地は、平成25年11月に全24区画の造成工事が完了し、平成26年7月に村が整備した災害公営住宅6戸が完成しました。自力再建は18戸予定されており、平成27年3月末までには17戸の完成が見込まれています。
南浜地区内にはコミュニティセンターが整備され、非常用発電機を備えているため、災害時には避難所としても機能します。また、城内地区の区画整理事業区域でも村営災害公営住宅の建設が進み、3月には完成する予定です。野田村における災害公営住宅の進捗率は、下安家地区高台団地の1戸と県整備の災害公営住宅の26戸を合わせると全体の46%が完了することになります。



津波に備え水門も整備
新たな防潮堤の建設

野田湾の海岸では、現在、3つの防潮堤工事が進められています。北側では、総延長約500m、海面からの高さ14mの野田海岸防潮堤の新設工事が進められており、宇部川の河口部には、長さ約1000mの水門を建設し、津波が川を遡って村内に流れ込むのを防ぎます。また、野田海岸防潮堤の南側には、総延長約1300mの前浜地区防潮堤、更にその南側には、総延長約800mの米田海岸防潮堤の改修工事が進められています。前浜地区防潮堤と米田海岸防潮堤の震災前の高さは、約10~12mでしたが、これを高上げて海面からの高さを14mとします。これら3つの防潮堤を連結して一体の防潮堤とすることにより、安全・安心な野田村の新しいまちづくりを進める計画です。



宇部川河口水門完成予想図

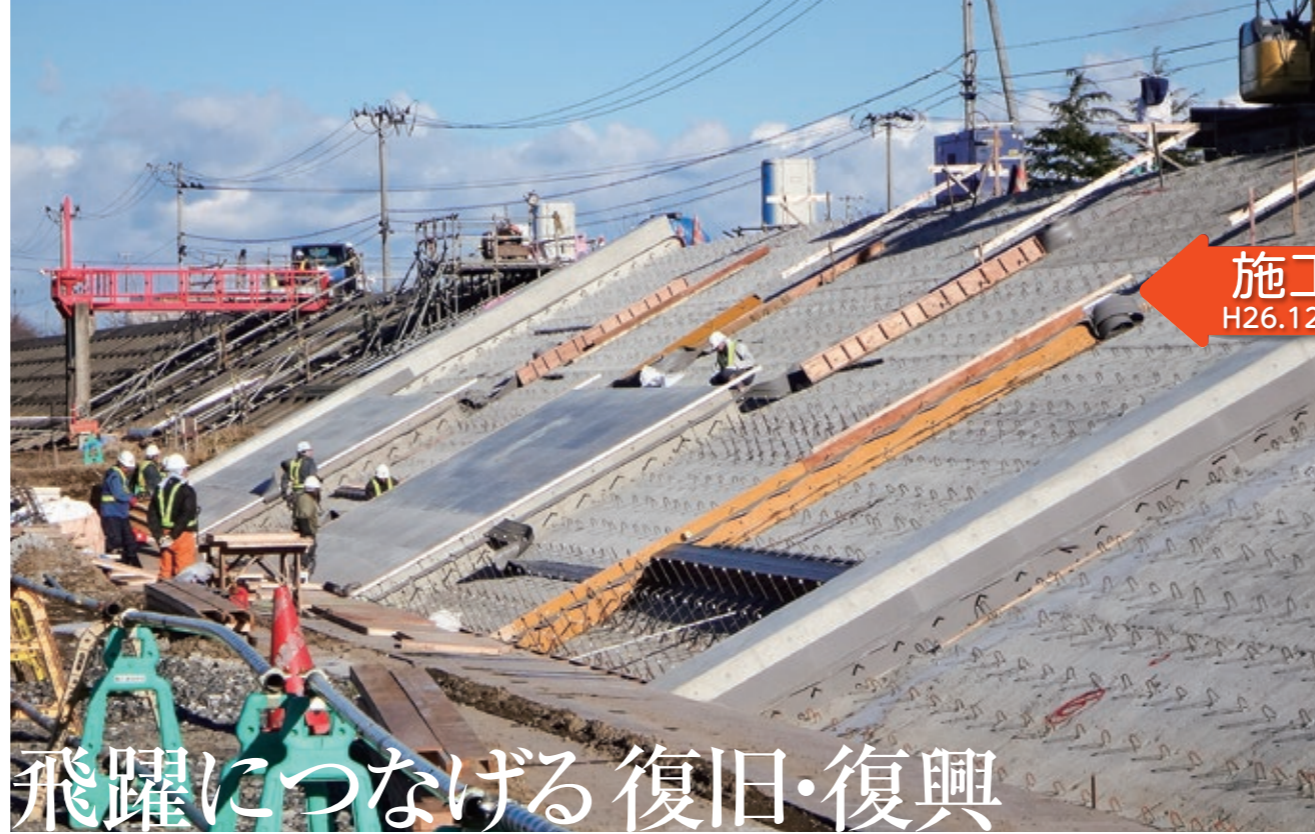
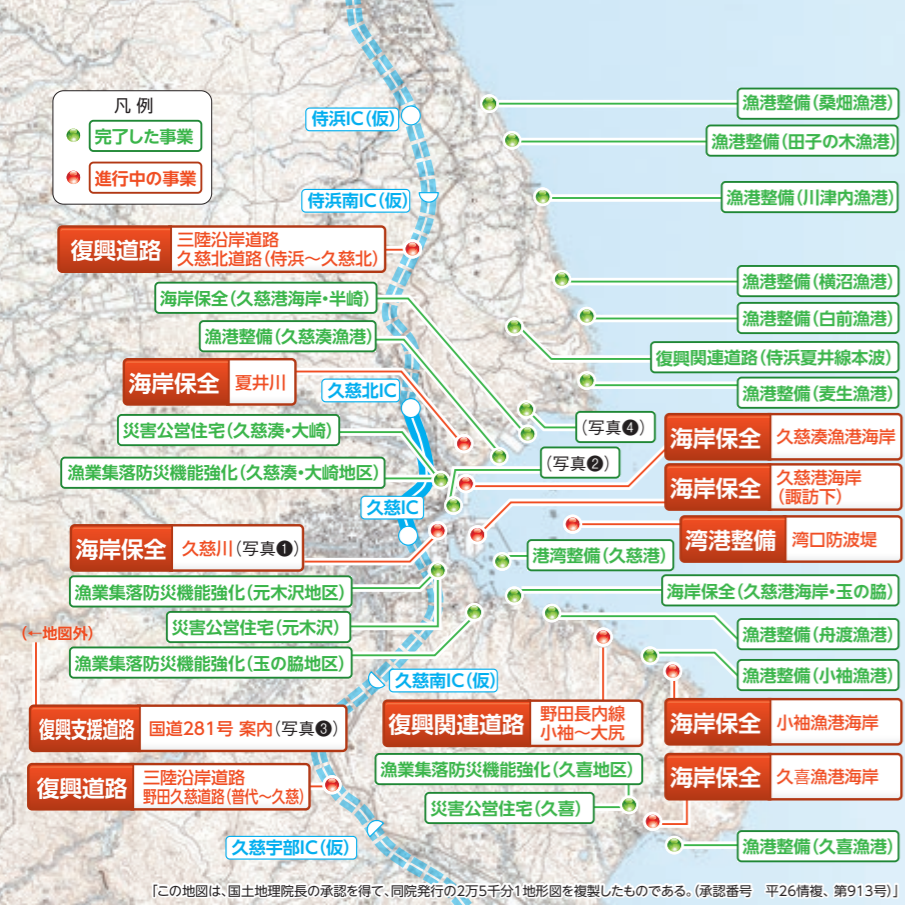
復興レポート
野田村

「安全・安心で活力あるむらづくり」を基本理念に復興に取り組んでいる野田村。村内各地で宅地の造成や災害公営住宅の建設が進んでいます。またH27年度は、村で一番大きな城内地区の高台団地の住宅建設が本格化する見込みです。



野田村産の山ぶどうワイン
ワインコンテスト入賞
野田村産山ぶどうを原料に醸造した山葡萄ワイン紫雲(しずく)が、「国内産ワインコンクール2014・国内改良等品種 赤の部」で銅賞を受賞。山ぶどうワインとしては同コンクールで初の受賞です。

H26.8



震災の津波が河川堤防を乗り越えた久慈川では、堤防を海面からの高さを8mに嵩上げする工事がH26年6月から進められています。国が進める久慈湾口防波堤の整備効果と併せ、防災機能の向上が期待されます。

久慈川河川堤防改築工事 BEFORE H24.7



社会資本の復旧・復興の状況



H27.2

新たな実習船「海翔」が完成

東日本大震災津波で実習船を失った久慈東高校、宮古水産高校、高田高校が共同で利用する実習船が完成し、2月14日に竣工式と船内見学会が行われました。全長34m、定員34人で171トン。以前の実習船より一回り大きくなりました。船名は3校の生徒から募集し、「海翔」に決定。



新もぐらんぴあ(①)

新「もぐらんぴあ」平成27年度完成予定

東日本大震災津波により壊滅的な被害を受けた久慈市で唯一の地下水族館「久慈地下水族科学館」もぐらんぴあ」の再建工事が、跡地で平成26年9月に開始されました。平成27年度中の営業再開を目指しています。

新「もぐらんぴあ」には、被災前の機能と併せ、産直施設と防災学習施設の機能が追加され、より一層魅力が向上するものと期待されています。また、久慈国家石油備蓄基地内には、新「もぐらんぴあ」から高台施設につながる連絡トンネルも整備され、入館者の安全な避難誘導が可能となっています。

なお、平成26年8月には、久慈駅前で営業を続けている「もぐらんぴあまちなか水族館」の入館者が20万人を突破し、記念セレモニーが行われました。



国道281号案内トンネル(②)

案内トンネル工事に着手「復興支援道路」の整備

久慈地域の住民の生活や観光物流に重要な役割を担う国道281号。若手県東日本大震災津波復興実施計画では、「復興支援道路」と位置付け、災害に強い交通ネットワークの構築を図っていくこととしています。

平成26年5月に、案内区(山形町内)でトンネル築造工事が始まり、トンネルの全長は1150mで、平成27年2月の時点では900mを越えるところまで掘削作業が進んでいます。貫通は平成27年前半、橋りょう等の完成を含めた全線の開通は平成30年度を目標としています。これにより約3100mであった現道が約2100mとなり、さらに急カーブが解消され、走行時間の短縮と安全性の向上が図られます。



復興レポート 久慈市

H25年度までに集団移転事業を完了。H26年度は案内トンネル工事に着手し、小袖海女センターが完成。H27年度秋には新しいもぐらんぴあが完成予定。



津波避難タワー(③) / イメージイラスト

津波から人命を守る高さ8.3mの避難タワー

鉄骨2階建の高さ8・3m。満潮時に東日本大震災級の津波が襲来した場合を想定し、簡易トイレやソーラー照明灯も設置。最大約200人の収容が可能です。

H27.1



「日本一の白樺美林」を宣言 樹液で地域おこしも

平庭高原「森の恵み・白樺の一滴」活用推進協議会は、高原内に群生する白樺の樹木が31万本を上回ることを調査し、「日本一の白樺美林」を宣言、樹液を用いた食品などの開発推進を発表しました。



大津波により大きな被害を受けた太田名部漁港は、平成23年には陸揚げ機能が回復、25年度までに漁港施設の復旧も完了。魚市場を会場に「海フェスタinふだい」も復活開催され、にぎわいを取り戻しました。

AFTER
H26.3

太田名部漁港 ①
BEFORE H23.3



海の復興が 明日への一歩

災害時には避難場所に 駅前コミュニティ広場

平成26年3月に三陸鉄道普代駅前に整備された「復興ふれあい広場」。普代道路（5ページ参照）の開通とあわせて、「復興ふれあい広場」を活用した市街地の活性化に期待が寄せられています。



「復興ふれあい広場」②



H27.3

平成27年3月2日に 国重要無形文化財に指定

鵜鳥神楽は、平成27年1月、震災以降初めてとなる北行巡行を開始し、平成27年3月2日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

鵜鳥神楽は、海上安全、豊漁縁結び、安産の神として古くから崇められ、現在も例大祭（旧暦の4月8日）には、各地から漁業に携わる人々が大勢訪れます。例大祭で激しく鮮やかに奉納される鵜鳥神楽は、黒森神楽（宮古市）とともに「北の鵜鳥、南の黒森」と呼ばれ、全国的にも重要な芸能です。正月から2ヶ月以上かけて沿岸各地を巡業し、舞が披露されます。

復興レポート

普代村

「あすへの一歩 青い海(水産業)の復興へ」をスローガンに掲げ、基幹産業の水産業の復興が進んでいる普代村。普代道路が開通し、普代駅前広場や整備が進められている普代浜等の活用による街の活性化が期待されています。



海と高原のまちが 確かな復興

「ひろの水産会館」 (ウニーク)

全壊した種市ふるさと物産館の跡地に、平成26年3月にオープンしました。愛称の「ウニーク」は特産のウニとユニークを合わせたもの。展望デッキ付きの4階建の建物は客船をイメージしており、町内の新鮮な海産物の直売所や、地元食材が提供される食堂、お土産品の販売所もあります。



ひろの水産会館「ウニーク」③



八木地区赤外線津波監視カメラ④

津波から人命を守る ハードの整備

防潮堤が未整備の状態であったため、洋野町内でも住家被害が著しかった八木地区では、北側に延長420m、海面からの高さ12mの防潮堤築造工事が平成26年6月から進められています。また、南側では8.6mまで土地を嵩上げする事業が今春から予定されています。

また東日本大震災の教訓から、夜間でも津波監視が行えるように、既設の津波監視カメラ設備に加え、赤外線カメラが設置されました。これにより八木地区を中心とする約23kmの海岸線で昼夜にわたる、津波襲来時の迅速かつ正確な情報収集が可能となり、工事中の防潮堤とあわせて、津波から人命を守ることとしています。

津波で壊滅的な被害を受けた八木港周辺。平成25年には使用不能となっていた八木魚市場の「洋野町営製氷貯水施設」も完成、市場機能を取り戻した場内には活気が戻ってきました。

AFTER
H26.3

八木港 ①
BEFORE H24.3



復興レポート

洋野町

「海と高原の絆、未来へ 確かな復興」を基本目標に掲げ、暮らしとなりわいの再生に邁進する洋野町。主要な復旧・復興事業は順調に進み、現在は八木地区において防波堤築造工事などが進められています。



二戸市
小笠原栄子さん
(足沢大豆生産振興組合研究部 部長)

野田の昆布と二戸の味噌作りがドッキング

震災直後から豆腐の売上金や自家製味噌を野田村に届けていましたが、被災地への思いとご縁を形にできないかと、商品開発を始めました。研究を重ねて出来上がったのが「たるさわ出逢い味噌」です。昆布の旨みが詰まったお味噌で、焼きおにぎりなどにすると昆布の風味がより一層引き立ち美味しいですよ。一緒に味噌作りができる仲間との出逢い、足沢を訪ねて来てくれる方々との出逢い、そして支援から始まった野田村の皆さんとの出逢い……出逢いは全て宝物です。この野田村の昆布の入った味噌を手にとることで、被災地の事を思ってもらえたら嬉しいです。



九戸村
(写真左から)
下川原一将くん・古舘蘭さん・吉田末紗先生
(九戸村立長興寺小学校 まごころ花くらぶ)

九戸村の小学生たちが復興を願い花をプレゼント

内陸に住んでいる子ども達も復興を応援しようということで平成24年度から活動を始めました。自分達でフウセンカズラを育て、九戸村内の道の駅で販売。その収益で一戸高校からシクラメンの鉢苗を購入して、野田小学校と野田村教育委員会に贈っています。初年度は受け身で活動していた子ども達ですが、2年目からは目的をしっかり理解して、積極的に取り組んでいます。(吉田先生)

野田村が復興してほしいと思いつつながら花を育てるので、みんなで手をかけて育てることはすごくいいことだと思います。花を贈ると野田小学校のみんなが喜んで、親しくしてくれて嬉しいです。(下川原くん)

花を見ることで明るくなったり笑顔になれます。後輩たちには私達が咲かせた花よりもきれいな花を咲かせて、野田小学校の皆さんにもっと笑顔になってもらえるよう頑張してほしいです。(古舘さん)



普代村
(写真左から)
お手伝い 太田法子さん
店主 大上澄子さん
(大上食堂)

40年続く食堂が津波に負けず営業を再開

津波でお店を流されまして、40年続けてきた商売でしたが、これを機に廃業を一度は決心しました。しかし、地域の皆さんに「お宅のラーメンが食べたいな」と声をかけていただき、仮設の店舗も借りることができるということでお店を再開することにしました。普代の皆さん、岩手の皆さん、そして全国の皆さんのお世話になり、お店が続けることができています。県外からもわざわざ来てくださるお客さんもいます。本当にありがたいですね。この店舗を借りられる期間が延びましたので、お手伝いさんにも手伝ってもらいながら、体力が続く限り頑張っていきたいと思っています。



一戸町
(写真左から) 会長 小寺三枝子さん
副会長 柴田照子さん・副会長 平井ミヤさん
(一戸町食生活改善推進協議会)

食に携わる仲間同士の交流で友情深める

平成23年12月に野田村へ行き、食改(食生活改善推進協議会)の皆さんからお話を伺いました。そこでご自身が被災しているながら、地域の皆さんにバランスを考えた食事を提供していると聞き、私達も何かしなければと思いました。そして24年3月に野田村の食改の皆さんを一戸町に招き、私達が考案した「御所野弁当」を一緒に食べ、アクセサリーのトンぼ作りをして交流しました。その後も交流を重ね、H26年度は10月には一戸町に来ていただき、紅葉狩りしました。小さな旅がリフレッシュになるようで、大変喜んでいただきました。回を重ねる毎に友情も深まってきて、交流を一生続けていきたいです。(小寺さん)

復興インタビュー さらなるステップへ

地域住民の皆さんをはじめ、多くの方々が様々な形で復興の活動に参加されています。
ある方は集団移転の用地造成を進め、ある方は地域の食に貢献する……。
震災から4年を迎えた平成27年。今取り組んでいる方々にお話を聞いてみました。



久慈市
(写真左から)
二子 昭子さん・新井谷峯子さん
笹原ユキ子さん・外野トシ子さん
(久慈市漁協二子生産部「浜のかあちゃん」従業員)

お客様に待たれた人気の朝市が復活

たくさんの方々に応援していただき、皆さんのお陰で仕事をさせてもらっています。浜の仕事は楽ではありませんが、仲間とみんなで長く続けていければと思っています。夏のウニやホヤ、冬のアワビの季節には、たくさんの方々が朝市に買い物に来てくれます。また、5月連休あたりから食堂で出している生ウニも人気です。たくさんの方々に買ってもらうことで、ここで漁れて当たり前にあるものが、本当に良い物だということを実感できました。ここにあるものは間違いなく新鮮。自分が手かけたものを提供し、お客さんから美味しいと言われると本当に嬉しいです。これからたくさんの人にきてもらって、喜んでもらえるよう、頑張っていきたいですね。(外野さん)



洋野町
(写真左から)
水上 浩美さん
堀米 裕子さん
(ひろの color)

町の新たな「めんこい」を考案

洋野町の「手仕事さん」(ハンドメイド作家・セラピスト等)のチーム「ひろの color」は、いろいろな活動をしている女性たちが繋がって、水産会館「ウニーク」で「めんこい」作品の製作・販売やイベントを行っています。この活動を、地元で多忙な毎日を送っている子育て世代等の女性に楽しんでもらえるものにしていきたいと思っています。町に1つでも笑顔がふえたら嬉しいです。(堀米さん)

前から手作り好きでしたが、作品を出す機会がありませんでした。会をきっかけに手仕事好きで、町を盛り上げたいという仲間が出来ました。津波で町の沿岸部も大きな被害を受けましたが、やっぱり洋野の海が大好き。今は、貝殻を使った、お土産にもなるグッズ作りを研究中です。(水上さん)



野田村
高木利夫 主査
(野田村役場復興むらづくり推進課)
※東京都からの派遣職員、東京都出身

東京から来て集団移転高台造成工事を担当

東日本大震災をニュースで見て、いてもたってもいられず被災地の力になりたいとの一心で、知り合いを通じ福島原発の現場に行きました。しかし、短期的なものではなく、自分の土木系の経験を活かしてお手伝いできたらと思い、東京都の派遣職員募集に応募し野田村にきました。私は高台造成工事を担当しており、1月には野田村での最後の工事が完了したところです。造成工事が終わった現場を見ると、少しほっとした気持ちになり、お手伝いできたことと実感できました。役場職員の方を始め、野田村の皆さんにはとても良くしてもらい、ここに来て本当に良かったと思っています。これからも派遣に来た時の初心を忘れず、スピードを大切に、しっかりと仕事をしていきたいと思っています。

二戸地域のトピックス



二戸市

北いわて学生デザインファッションショー開催

二戸市をはじめ北いわてには縫製業が集積し、世界的なブランド衣料品を製造しています。この地域の縫製業を担う人材を育成するため、県内の高校生や専門学校生からデザインを募集し、優秀作品を発表するファッションショーが2月21日に二戸市民文化会館大ホールで開催されました。ショーでは、プロモデルと地元小学生の子どもモデルが、地元事業者が制作した作品をまとい、華やかな雰囲気にもまれていました。



軽米町

鴨とフォアグラのムース そばかけ巻き

清流鶏と県産野菜のかけ鍋

軽米かけメニューフェア開催

軽米町では「かけ」を広くPRするため、2月に盛岡市内の5店舗で「軽米かけメニューフェア」を開催しました。「かけ」とは同町のほか北いわてで伝承されてきた郷土食。名の由来は、そば打ちの際に出る「かけら」や「角形」とも伝えられており、かけらも大切に食べてきた食文化を今に伝えています。伝統的な食べ方のほか、イタリアン・フレンチ・沖縄料理など参加店が趣向をこらしたメニューを提供しました。



九戸村

「イワテヤマナシ」商品化へ向けた取組

「イワテヤマナシ」は小さい実と豊かな香りが特徴で、宮沢賢治の童話「やまなし」でも知られています。神戸大学は九戸村内に「ヤマナシ」見本園を設け、昨年初めて、植えてから4年の木が実を付けました。村内でも有志が集い、「九戸村ヤマナシ生産組合」を設立して、苗木作り等を行っています。同組合では、「ヤマナシ」の加工品にチャレンジしており、「シャーベット」を試作、商品化を目指しています。



一戸町

冬の奥中山のもう一つの魅力「菜魚湖 ワカサギ氷上釣り」

一戸町奥中山地区にある大志田ダム「菜魚湖」では、2月4日から22日まで、ワカサギ釣りが解禁されました。菜魚湖は地元の漁協がワカサギを放流し、魚影が濃いことで知られています。初心者にも優しい釣り場を目指し、今年、道具レンタルや地元ガイドを始め、ホームページも作りました。皆さんも来年は氷上のワカサギ釣りにチャレンジしてみませんか。
(解禁日は年によって異なります。お問い合わせの上、お出かけください)。【問い合わせ先】上馬湖川漁業協同組合TEL0195-33-2111(内線276) URL <http://www.nanako-wakasagi.com/>

《久慈地域と二戸地域の絆》



復興の現場見学会

復興の状況を地域の住民が見学

野田村

県北広域振興局では、地域の皆さんに復興の状況を理解してもらうため、平成26年7月27日に野田村で「復興の現場見学会」を開催しました。当日は、久慈地域の皆さんのほか、ボランティアとして復興に協力してきた二戸地域の皆さんなど計45名の方が参加。震災ガイドから当時の状況や教訓を聞きながら、城内地区高台造成工事、災害公営住宅及び防潮堤建設工事等の現場や、被災後に再建した「のだ塩工房」を訪れました。

北いわて復興最前線

東日本大震災津波からの復興に向けた取組状況

安全・安心なまちづくり

災害公営住宅の建設 (平成27年2月末時点)



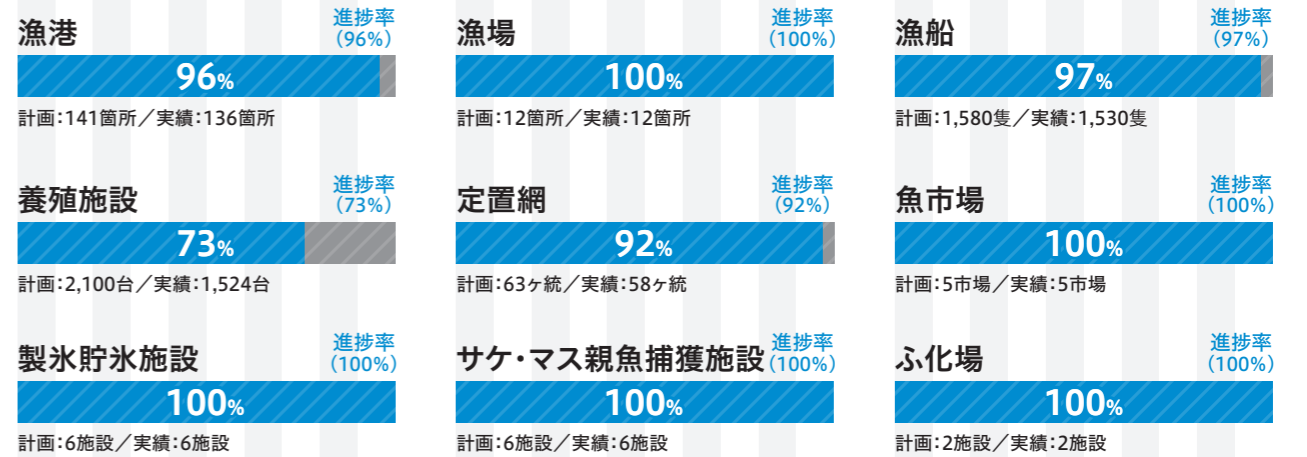
自力再建住宅の宅地造成・宅地嵩上 (区画整理事業を除く)



生産基盤等被災状況

- 漁船:被災1,580隻
- 魚市場:被災5市場
- 養殖施設:被災2,100台
- 製氷貯氷施設:被災6施設
- 定置網:被災63ヶ統
- ふ化場:被災4施設

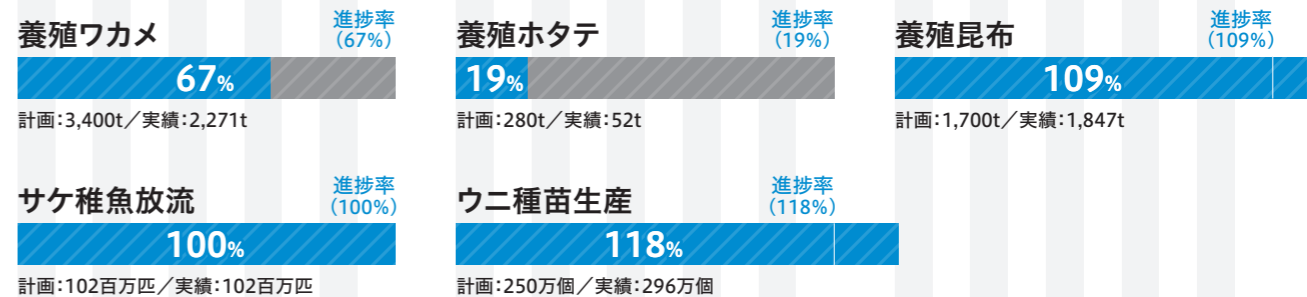
復旧の進捗状況 (平成26年12月末時点)



水産物被災状況

- 養殖ワカメ:3,400t
- サケ稚魚放流:102百万匹
- 養殖ホタテ:280t
- ウニ種苗生産:250万個
- 養殖昆布:1,700t

復旧の進捗状況 (平成26年12月末時点)





広げよう 感動。伝えよう 感謝。

第71回国民体育大会

2016 希望郷 **いわて国体**

冬季大会

スケート・アイスホッケー競技会／平成28年1月27日(日)～1月31日(木)
スキー競技会／平成28年2月20日(日)～2月23日(木)

本大会

平成28年10月1日(日)～10月11日(木)
(水泳競技は平成28年9月4日(日)～9月11日(木))

第16回全国障害者スポーツ大会

2016 希望郷 **いわて大会**

平成28年10月22日(日)～10月24日(火)

わんこぎょうだい



平成28年に岩手県で開催される希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、東日本大震災津波からの復興に向けて、全力で取り組んでいる最中での開催となります。全国各地から訪れる選手・役員の皆さんを「おもてなしのこころ」で歓迎することを通じ、復旧・復興に多くの御支援をいただいている全国の皆様に、感謝の気持ちを伝えましょう。

目指せ！ 希望郷いわて国体 現役選手インタビュー

常に頂点を目指して
誰にも負けない努力を続けていく

久慈中学校 柔道部 畠山 立成さん(3年)



部活の後に、スポーツ少年団でも練習しています。筋トレに力を入れていて、めげることなくやりきります。精神的にも強くなるには、辛い練習を乗り越えることが大切だからです。中学最後の全国大会では、日本一になった選手に負けたのですが、とても惜しい試合でした。高校生になっても1年生からチャンピオンを目指します。ライバルたちも努力していると思いますが、それ以上の努力をして頑張っていきたいと思います。

強い選手から技を学び
ライバルと競いながら自分を高める

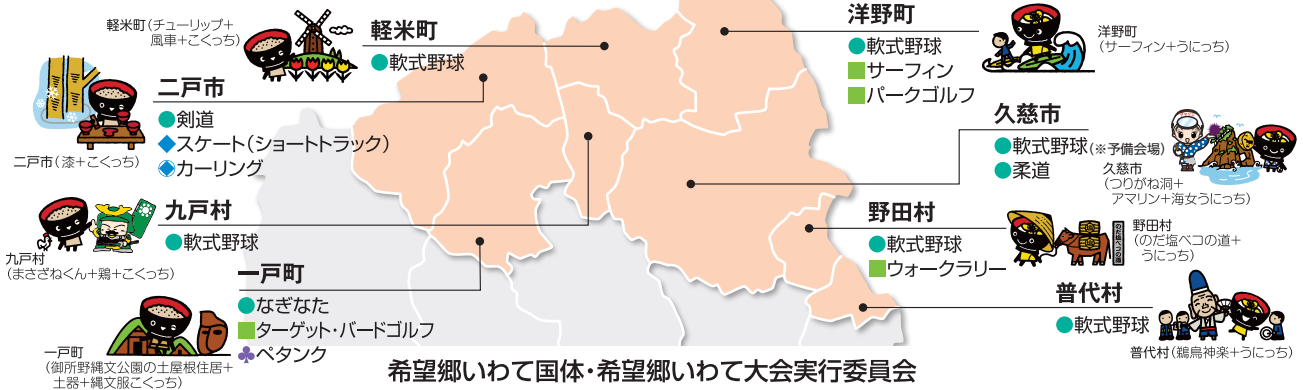
一戸高校 なぎなた同好会 西館そらさん(1年)⑤ 熊谷 里奈さん(1年)⑥



月に一回、ターゲットエイジの練習会に参加しています。国体を目指す仲間達と試合をすることで、個人はもちろんチームとしても強くなれると思います。

県内だけでなく県外にも数多く遠征し、強い選手との試合や練習をしています。強い選手の技を見ることはたくさん得るものがあります。次の高校総体では団体戦も個人戦も、全部勝てるよう、どんどん遠征して強くなっていきたいです。

- ◆国体冬季大会 正式競技 ◆国体冬季大会 デモンストレーションスポーツ
- 国体本大会 正式競技、特別競技 ■国体 デモンストレーションスポーツ
- ◆全国障害者スポーツ大会 オープン競技



【募集予告】

「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」運営ボランティア

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会事務局では、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」で、両大会の運営をお手伝いいただく運営ボランティアを4月1日から募集します。

- 募集内容／希望郷いわて国体(冬季大会)開始式・表彰式の運営補助(80人)、希望郷いわて国体(本大会)総合開会式・総合閉会式の運営補助(1,800人)、希望郷いわて大会(全国障害者スポーツ大会)開会式・閉会式・競技会の運営補助(3,500人)
- 応募資格／活動日の時点で中学生以上の方(ただし、中学生の応募については、保護者の同意が必要です)
- 募集期間／平成27年4月1日～平成28年3月31日
- 応募・問合せ先／希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会事務局 ☎019-629-6297

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.iwate2016.jp/>

希望郷いわて国体 希望郷いわて大会

検索